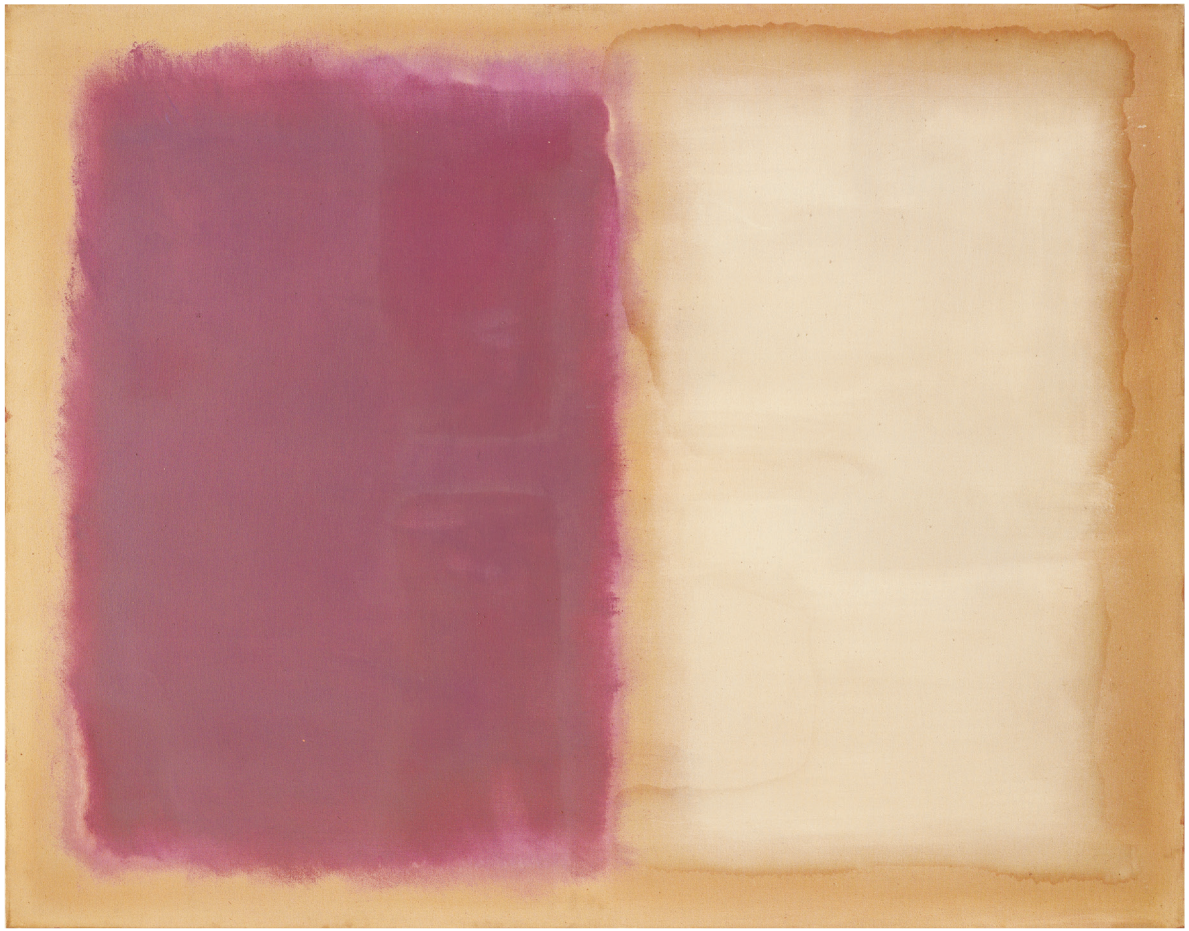
esplanade



FUKUOKA ART MUSEUM 福岡市美術館

esplanade [エスプラナード]
JULY 2024 | NO.216

esplanade

［エスプラナード］

JULY 2024 | NO.216

contents

03　所蔵品紹介

04　3つのポイントで振り返る
　　キース・ヘリングの世界と魅力

05　なぜこの作品が福岡市美術館へ?

06　今日はなにしに美術館へ?
　　来館者にインタビューしました

08　夏休みこども美術館 2024
　　「道、その先には何がある?」

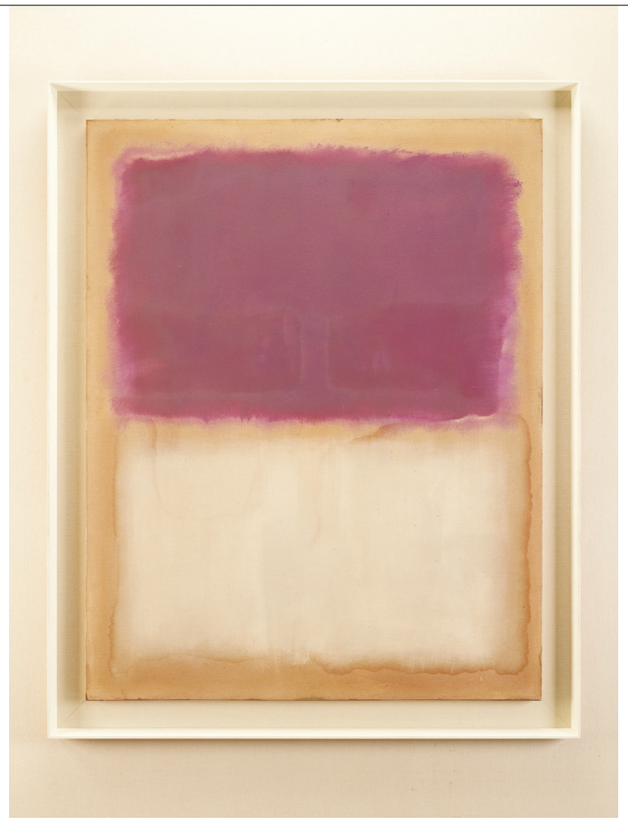
10　美術館スケジュール（7〜9月）

この夏の福岡市美術館の展覧会はよくみると「みち」がキーワード。夏休みこども美術館2024では「道、その先には何がある?」と題して、様々な道の絵を展示します。特別展示室のキース・ヘリング展のサブタイトルは、「アートをストリートへ」。みちって、人が作り、行き交う場所です。作家によって、時代によって、どんなふうに道を捉えているのか。さまざまな道を展示室でお楽しみください。

表紙の作品

所蔵品紹介

無題



マーク・ロスコ Mark ROTHKO (1903-1970)
1961年
油彩・画布
175.6×137.8 cm

© 1998 Kate Rothko Prizel &
Christopher Rothko /
ARS, New York /
JASPAR, Tokyo G3527

縦長のキャンバスに、波打つような柔らかい輪郭をした横長の矩形が上下に並んでいます。上は濃い紫色、下は薄い灰色がかかった白色で、近づいて見ると、紫色の矩形のなかにより濃い紫色の矩形があることにも気づきます。丁寧かつ思慮深く絵具を塗り重ねて描かれた本作からは、色と形の静かな響き合いと、崇高さにも似た深い精神性が感じられます。

作者であるマーク・ロスコは、大画面構成や触覚的な色遣いを特徴とする抽象表現主義の代表的作家の一人です。帝政ロシア時代のドヴィンスク（現在のラトヴィア共和国）でユダヤ人の家庭に生まれるも、ユダヤ人迫害から逃れるために、10歳のときに家族とともに渡米。その後イエール大学に進学しましたが、中退し、ニューヨークの美術学校に通って絵画を学びます。初期の具象的な表現からシュルレアリスム風の表現を経て、1940年代には「カラーフィールド・ペインティング（色面絵画）」と呼ばれる、より抽象的な絵画表現に至ります。本作《無題》はその様式を代表する重要な作例です。

「無題」という題名は、作品の意味について何も語りません。しかしながらその沈黙は鑑賞者を包み込み、静謐な画面の深奥へと誘います。会場で、ぜひ作品との無言の対話に身をゆだねてみてください。

——学芸員（近現代美術係）山田隆行

特別展

「キース・ヘリング展　アートをストリートへ」

3つのポイントで振り返る

キース・ヘリングの世界と魅力

躍　動感のある愛くるしいイメージによって世界中で愛されるキース・ヘリング。本展開催にともない、その世界と魅力を3つのポイントで簡単に紹介していきます。

1「アートはすべてのひとのために」ーヘリングの哲学

ヘリングにとってアートは一部の特権階級が享受するものでなく、すべてのひとに開かれるべきものでした。アートは日常であり、人生そのものがアートである。そのような信念を抱いたヘリングは、わずか31年という短い人生を全力で駆け抜けました。

2　舞台は「街」

ヘリングのキャンバス（支持体）は街そのもの。代表作となるサブウェイ・ドローイングは、地下鉄駅構内の空いている広告版の上に貼られた黒い紙の上に描かれました。誰もが利用する地下鉄は、まさに人とアートが日常的に出会う理想のアート空間の一つでした。

3　社会問題への取り組み

戦争、大量破壊兵器、人種差別、飢饉、病気。ヘリングは、社会が様々な問題と直面した時代を生きました。ヘリング自身もその一つであるエイズによって命を失うのですが、亡くなるそのときまで、彼はアートを通してこれらの社会問題の啓発活動に取り組みました。

ヘリングはまさに既存のアートの枠におさまらない作家です。これまで紹介した3つのポイントはその世界と魅力を伝えるほんの一部分に過ぎません。本展は、ヘリングの魅力と世界を存分に体感できる貴重な機会です。ぜひ会場に足を運んで、じっくりと作品を鑑賞してみてください。

―学芸員（近現代美術係）山田隆行

展覧会情報

特別展「キース・ヘリング展　アートをストリートへ」

◇会期：7月13日（土）～9月8日（日）
◇会場：2階 特別展示室
◇観覧料：一般1800円（1600円）、高大生1200円（1000円）、小中生800円（600円）
※（ ）内は前売り、20名以上の団体料金。



Photo by ©Makoto Murata


↓ 東京会場（森アーツセンターギャラリー）での展示風景。
福岡展でもニューヨークの地下鉄を模した壁の上に作品が
展示される予定で、その当時の雰囲気を感じられます。
撮影：山本倫子
Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

企画展

西日本シティ銀行コレクション展

なぜこの作品が福岡市美術館へ？

元・福岡シティ銀行（現・西日本シティ銀行）頭取の四島司（1925－2015、以下敬称略）は、九州の地における現代アートコレクターの元祖、と言えるでしょう。西日本シティ銀行が所蔵する四島の収集作品は約260点にものぼり、野見山暁治、ジャクソン・ポロックなど、国際的に活躍する作家の作品から成ります。

四島の作品収集のきっかけは、世界的建築家・磯崎新との出会いでした。1971年、福岡シティ銀行本店の設計を依頼したとき、若き日の磯崎は、ロビーに展示する作品の制作を美術家に依頼してはと、四島に助言したのです。これを機に、四島は作家のアトリエ、ギャラリーや美術館に足を運び、美術書を読んで鑑識眼を磨き、数々の作品と出会っていきました。そんな四島の軌跡は、作品と美術愛好家との理想的な関係を描いているといえるかもしれません。

現在、福岡市美術館には、西日本シティ銀行のコレクションのうち28点が寄託されています。JR博多駅前にあった西日本シティ銀行本店の移転工事に伴い、2020年に寄託を受けたのです。当館は、1979年の開館以来、「現代美術」を収集することを指針の一つにしていますが、1970年代に収集活動を開始しているという共通点からか、当館の所蔵品と西日本シティ銀行のコレクションは、どこか響きあっています。

これまでもコレクション展示室で、数点ずつ紹介していましたが、今回、全ての作品を一堂に会することになります。〝九州の現代アートコレクターの元祖〟、四島司の審美眼をたどりながら、えりすぐりの作品の数々を味わう貴重な機会を、ぜひお見逃しなく！

―学芸員（近現代美術係）忠あゆみ

展覧会情報

企画展「西日本シティ銀行コレクション展」

◇会期：9月14日（土）～10月14日（月・祝）
◇会場：2階 特別展示室
◇観覧料：コレクション展示室の観覧券でご覧いただけます。
一般200円（150円）、高大生150円（100円）、中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金。


クリスト《Wrapped Chair》1966 西日本シティ銀行蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3527


辰野登恵子《Untitled 97-3》1997 西日本シティ銀行蔵

今日はなにしに美術館へ?

来館者にインタビューしました



舞鶴公園の桜が盛りを少し過ぎた4月9日、10日に、当館にお越しの方にインタビューを行いました。外国からのお客様もたくさんいらっしゃいましたよ。



大好きなミロが見られてうれしかった

チョウさん

ミロが好きなので、ここで再会できてうれしいです。彼の絵はカワイイですよね。田中千智《生きている壁画》も、黄色のパートが鮮やかで黒とのコントラストが効いていて、よかったです。



好奇心が、わたしたちを外に連れ出します

たかまつさん(右)

もともと高校の同級生で、10年くらい前から一緒に美術館へ出かけるようになりました。鑑賞後に2人で話すのも楽しいんですよ。友だちがいるっていいですね。

かきたさん(左)

今日はギャラリーの独立展を目的に、久留米からやってきました。美術館に行くことは、生活にハリをもたらしてくれます。同じ歩数を歩くにしても、歩くための3000歩と、絵を見ながらの3000歩では楽しさが違います。



美術館は建築を味わうのも楽しみの一つです

やぎさん(右)

今日は福岡城さくらまつりに来ていたのですが、雨に降られて雨宿り中です。草間彌生《南瓜》は、福岡市美術館の空間に似合っていていいですね。安藤忠雄や隈研吾など、建築家が作った空間に行くのが好きなので、美術館にはその空間を楽しみに訪れることもあります。

あべさん(左)

僕は葛飾北斎など、昔の日本美術を見るのが好きです。こちらの1階古美術展示室には仏像があると聞いたので、後で見てみようかな。



六本松周辺の環境が好きです

イムさん

去年1ヶ月ほど福岡に滞在し、六本松周辺がとても気に入り、今回が2度目の訪問です。前回福岡市美術館に来たときに見た、漢字のカリグラフィー作品が印象に残っています。いま大学で広告の勉強をしています。日本の広告にはストーリー性があって、ユニークだと思います。





ソー・ソウエン《お臍と呼吸》のアイデアがよかった

リューさん

香港からの旅行で訪れました。ソー・ソウエンの作品は、いろんなイメージを喚起させるもので、とても興味深かったです。美術館の楽しみの一つは、ミュージアムショップ。お土産を探してみようと思います。



《桜を放つ女性》は、女性の置かれた不平等さを可視化し、エンパワーする作品で、印象に残りました

ウーさん

シンガポールから福岡城さくらまつりを目的に来ました。それぞれの国の美術館を訪れるのが大好きです。インカ・ショニバレCBE《桜を放つ女性》は、女性が不平等な状況に置かれていることを表現しつつ、それを変えるべく戦ったアクティビストの名前が記されていて、力強い作品でした。男女ともに同じ権利を持てるようになるといいですよね。





アートの文化的背景が感じられるのがおもしろい

ガブリエラさん(右)

イスラエルから、旅行でやってきました。藤野一友《抽象的な籠》が、女性が様々なものを包含している様子を表現していて、興味を惹かれました。

オフールさん(左)

イ・ヒョンジョン《キムチ　2022-1》が気になりました。キムチが人間の心臓と重ね合わされていて、グロテスクなような、でも食べるものだし…とアンビバレントな気持ちにさせられます。

キッズスペースがお気に入りです

ひろみさん(右)

大濠公園のくじら公園にほぼ毎日遊びにくるので、美術館にもよくうかがいます。tupera tuperaのファンなので、少し前の展覧会「かおてん.」はとても楽しかったです。

こうしろうくん(左)

キッズスペースが好き。絵本を読んだり、人形を壁に貼り付けたりするよ。



イラストレーションを勉強中なので、刺激になります



しらそうずさん(左)

デザイン学校でイラストレーションを学んでいます。今日はマルク・シャガールの《空飛ぶアトラージュ》がよかったです。線と色がずれているところが、いいな！と思ったポイントです。

はだのさん(右)

美術館に来ることそのものが刺激になります。



夏休みこども美術館 2024
「道、その先には何がある？」

● 会期：6月13日（木）～9月1日（日）
● 会場：2階 近現代美術室A



当館では毎年、夏の時期に子どもたちを対象に展覧会や関連プログラムを行う、「夏休みこども美術館」を開催しています。今年の「夏休みこども美術館」のテーマは“道”。ただし道、といっても皆さんが普段歩く道路や通りを表した作品を集めただけではありません。展覧会では、たくさんの広がりをもつ道というテーマを、次の3つの章に分けてご紹介します。

はじめの章、「ちかくの道、とおくの道」ではいろいろな道が描かれた作品を取り上げます。身近な街の中にもありそうな道や、人の往来する賑やかな道、別世界へとつながる道など、美術館には道が登場する絵がたくさん収蔵されています。まずは絵の中の道をたどって、それぞれの世界を楽しんでみてください。

二つ目の章では、「いっぽ、にほ、さんぽ　歩いてみる」をキーワードに、靴というモチーフに注目したリサ・ミルロイの作品などをご紹介します。もし自分が実際に一歩を踏み出し、今いる場所から新しい場所へと向かって道を歩きだすとしたら？どんな靴を選んで、どこへ向かうでしょう？作品に描かれた色とりどりの靴を見ながら、イメージしてみてください。

三章の「道、その先には何がある？」では、道が象徴的に取り上げられた作品を展示します。画面に大きく広がる先が見通せない道は、不安を掻き立てると同時に、未知の場所につながるワクワクやドキドキなど、さまざまな感情を生み出します。描かれた道は実際に先を見ることはできませんが、もし、いつの日か行き先がわからない道に突き当たったとしても、勇気をもって進む方向を選ぶのは、絵を見ている子どもたち自身でもあるのです。

子どもたちには道にまつわる作品が並ぶ会場を歩き回りながら、自由に想像を広げてもらえればと思っています。

教育普及係長　髙田瑠美

「1章　ちかくの道、とおくの道」より

これは夢の道？ それともほんとうにある道？



牛島憲之《赤坂見附》1940年

色があわくて形もまるくて、なんだかかわいい絵です。なにが描かれているか、よく見てみましょう。車、人、りょうがわのフワフワした雲のようなものは、木かな？まるで夢の中の道みたいに見えますが、じつはこの絵のタイトルには「あかさかみつけ」と書かれていて、東京にじっさいにある地名だからおどろきです。もしあなただったら、自分のいえのまえの道を、どんなふうに描くでしょうか？

「2章　いっぽ、にほ、さんぽ　歩いてみる」より

道をあるくときに、くつは大切



リサ・ミルロイ《靴》1989年

あなたはくつを何足もっていますか？そのうちお気に入りはどれ？学校に行くとき、友だちとあそぶとき、お出かけするときには、どのくつをはきますか？この絵にはたくさんのくつがえがかれています。（何足あるか数えてみてもいいかも）。あれ、ぜんぶ右足用のくつに見えますね。左足用はなぜないのでしょう？このくつははきやすそうでしょうか？どうして全部おなじ方向を向いているのでしょうか？

「3章　道、その先には何がある？」より

右か、左か。それがもんだいだ



横尾忠則《暗夜光路 旅の夜》2001年

まっくらな中で、目の前にこんなわかれみちが出てきたら、あなたはどっちの道をえらびますか？（ちなみにこのような道には「三叉路」とか「Y字路」という名前があります。かっこいい）。もしも右に行ったら、どんなことが起きるでしょうか。もしも左に行ったら、だれに出会うかな？考えるのは自由なので、おもいっきり想像しておはなしをつくってみるのもおもしろそうです。

美術館スケジュール

● 休館日　● 開館時間延長日（～午後8:00）7月～10月の金・土は夜間開館!

7月 1 月 2 火 3 水 4 木 5 金 6 土 7 日 8 月 9 火 10 水 11 木 12 金 13 土 14 日 15 月 16 火 17 水 18 木 19 金 20 土 21 日 22 月 23 火 24 水 25 木 26 金 27 土 28 日 29 月 30 火 31 水

8月 1 木 2 金 3 土 4 日 5 月 6 火 7 水 8 木 9 金 10 土 11 日 12 月 13 火 14 水 15 木

9月 16 金 17 土 18 日 19 月 20 火 21 水 22 木 23 金 24 土 25 日 26 月 27 火 28 水 29 木 30 金 31 土 1 日 2 月 3 火 4 水 5 木 6 金 7 土 8 日 9 月 10 火 11 水 12 木 13 金 14 土 15 日 16 月 17 火 18 水 19 木 20 金 21 土 22 日 23 月 24 火 25 水 26 木 27 金 28 土 29 日 30 月

特別展（2階）

- 7月13日（土）–9月8日（日）
  - ・キース・ヘリング展 アートをストリートへ
- 9月14日（土）–10月14日（月・祝）
  - ・西日本シティ銀行コレクション展
- 9月14日（土）–10月14日（月・祝）
  - ・FaN Week特別展示 コレクターズ展

コレクション展 近現代美術（2階）

- 通期
  - ・コレクションハイライト（近現代美術室A）
- 6月13日（木）–9月1日（日）
  - ・夏休みこども美術館2024　道、その先には何がある?（近現代美術室A）
- 6月13日（木）–9月1日（日）
  - ・野見山暁治のしごと（近現代美術室B）
  - 2023年6月に亡くなった画家・野見山暁治のしごとを所蔵作品・寄託作品から辿ります。
- 9月14日（土）–12月8日（日）
  - ・水彩って何?（近現代美術室A）
- 9月14日（土）–12月15日（日）
  - ・あらがう（近現代美術室B）
- 通期
  - ・コレクションハイライト（近現代美術室C）

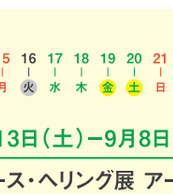
コレクション展 古美術（1階）

- 6月18日（火）–8月4日（日）
  - ・源氏物語の世界（古美術企画展示室）
- 8月6日（火）–9月29日（日）
  - ・田中丸コレクション　華や　かなる九州の桃山茶陶（古美術企画展示室）
  - 田中丸コレクションの九州古陶器に、当館所蔵品を加え、桃山時代の茶陶の魅力を紹介します。
- 6月4日（火）–8月18日（日）
  - ・表具のキホン（松永記念館室）
- 8月20日（火）–10月27日（日）
  - ・秋の名品展（松永記念館室）
- 通期
  - ・東光院のみほとけ（東光院仏教美術室）

LECTURE

つきなみ講座

JULY-SEPTEMBER 2024



毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順（30分前開場） ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

7月 フカボリ美術鑑賞「夏休みこども美術館2024」の作品を見る

夏休みこども美術館の展覧会企画についてお話するとともに、今年のテーマである「道」をからめながら、展示作品についてちょこっと深掘りしてご紹介します。

日時：7月20日（土）15:00-16:00
会場：レクチャールーム（定員54人）
講師：髙田瑠美（教育普及係長）

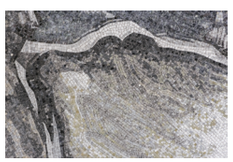


牛島憲之《赤坂見附》1940年

8月 アートは街にどう作用する?

銀行には野見山暁治が、商店街には岡本太郎が…福岡の街中には様々な場所にアートがあります。「西日本シティ銀行コレクション展」の予習として、福岡の街とアートとの関係について考えます。

日時：8月17日（土）15:00-16:00
会場：レクチャールーム（定員54人）
講師：忠あゆみ（学芸員・近現代美術係）



旧西日本シティ銀行本店の野見山暁治によるモザイクタイル壁画《宵》の一部
（撮影:針金洋介）

9月 桃山時代の和物茶碗は、なぜ歪んでいるのか?

茶の湯の茶碗の変遷をたどりながら、桃山時代の和物茶碗がそれまでの〝茶碗のルール〟を破り、新しいデザインを生みだしていく様子やその発想を解きほぐしていきます。

日時：9月21日（土）15:00-16:00
会場：レクチャールーム（定員54人）
講師：久保山炎（一般財団法人 田中丸コレクション 学芸員）



長次郎作《黒樂茶碗 銘 次郎坊》
桃山時代 16世紀

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

ギャラリー A-F 2階

7月2日（火）～7月7日（日）
- ・懐胎（ギャラリーA）
- ・第52回日本の書展（ギャラリーB,C,D,E,F）

7月9日（火）～7月15日（月・祝）
- ・令和6年度福岡県高文連福岡地区大会（第39回美術・工芸展）（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

7月17日（水）～7月21日（日）
- ・第22回九州二紀展（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

7月23日（火）～7月28日（日）
- ・塩島亮太のsolo EXIHIBITION Vol.2（ギャラリーA）
- ・Fascinated by OKINAWA（yoc）（ギャラリーB）
- ・ヨコテフサミ墨画展（ギャラリーC）
- ・べい 米翔 驚愕の点描画展（ヴァンセンヌ市サロン名誉賞受賞記念）（ギャラリーD）
- ・65才になったので、退職して、残りの人生、絵に専念する覚悟の藤田英夫展（Sight of Traces 痕跡のまなざし）（ギャラリーE）
- ・第37回 工芸美術知新会展（ギャラリーF）

7月30日（火）～8月4日（日）
- ・紫彩展（ギャラリーA）
- ・阿部直昭絵画教室 "彩友会"（ギャラリーB,C,D）
- ・グループJAMA展'24（ギャラリーE）
- ・和田木彫生徒作品展（ギャラリーF）

8月6日（火）～8月12日（月・休）
- ・重富 健二郎 個展「ただそこに在ること」（ギャラリーA）
- ・武蔵野美術大学校友会福岡支部展（ギャラリーB,C,D）
- ・歸雲書展「さんげ」ー八月の自分ー（ギャラリーE）
- ・第64回西日本フォトコンテスト 入賞作品展（ギャラリーF）

8月14日（水）～8月18日（日）
- ・西日本新聞 書道之友展2024（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

8月20日（火）～8月25日（日）
- ・Shake（ギャラリーA）
- ・桑樹展（ギャラリーB,C,D）
- ・喜寿老人 元気出せニッポン 平和縄文人と大和心を書く（ギャラリーE）
- ・シボリコミュニティ福岡第22回作品展 藍と絞り（ギャラリーF）

8月27日（火）～9月1日（日）
- ・第21回 姚明中国水墨画書道研究会展（ギャラリーA）
- ・よかも（ギャラリーB,C,D）
- ・第8回OZC福岡支部写真展（ギャラリーE）
- ・グループ テオ展（ギャラリーF）

9月3日（火）～9月8日（日）
- ・KINJIが爆発　ミス・ニャータも参加（ギャラリーA）
- ・甲斐、片岡、清田　3人展（ギャラリーB）
- ・soyFIELD 絵画教室 作品展（ギャラリーC）
- ・第15回写友会 弥生 写真展（ギャラリーD）
- ・クロスステッチ刺繍展（ギャラリーE）
- ・薫風会 佛像彫刻作品展（ギャラリーF）

9月10日（火）～9月16日（月・祝）
- ・第20回記念九大美術会展（ギャラリーA）
- ・第5回魚心堂教室書画印展（ギャラリーB,C,D）
- ・Ao Etching Studio 銅版画教室展（ギャラリーE）
- ・リベルテ113ーOB展（ギャラリーF）

9月18日（水）～9月23日（月・休）
- ・第29回九洋展（ギャラリーA）
- ・第60回記念游展（ギャラリーB）
- ・第3回福岡絵画サークル グループ展示会（ギャラリーC,D）
- ・上野真歩 個展（ギャラリーE）
- ・第10回野口正幸絵画教室生徒作品展（ギャラリーF）

9月25日（水）～9月29日（日）
- ・福岡教育大学特設書道科12期生 古希記念書道展（ギャラリーA）
- ・第39回「日本の海洋画展」（ギャラリーB,C,D）
- ・玉石会展（ギャラリーE）
- ・第54回 青像グループ写真展（ギャラリーF）


グランドメゾン大濠公園ザ・タワー


アイランドシティ オーシャン&フォレストタワーレジデンス


グランドメゾン大濠公園ザ・タワーレジデンス


グランドメゾン赤坂JOHSEKI

時と共に美しく、積水ハウスの分譲マンショングランドメゾン

GRANDE MAISON SEKISUI HOUSE

「グランドメゾン倶楽部」会員募集中

SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社 お問い合せは 0120-143-377 グランドメゾン 検索

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体

GRANDE MAISON SEKISUI HOUSE / 大王製紙株式会社 / QTnet / 福岡銀行 / NIPPON EXPRESS / ウエスト / 人につくす、街につくす。セイワ世研 / AZUSA SEKKEI / 九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。 / 草苑

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（http://www.ffac.or.jp/wa/）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

RESTAURANT

レストラン プルヌス限定メニュー

「焼豚と香味野菜の冷やし中華そば」

醤油ベースのさっぱりとしたタレに香味野菜、食べるラー油でピリッとしたアクセントをつけた、夏にぴったりのオリジナル冷麺です。

販売期間：2024年7月2日（火）～9月8日（日）



2,200円（税込）

福岡市美術館 FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館 ウェブサイト www.fukuoka-art-museum.jp

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6　TEL：092-714-6051（代表）　FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00） ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日 ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日）

esplanade JULY 2024 | NO.216

福岡市美術館　季刊誌エスプラナード216号　発行日：2024年7月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 https://www.fukuoka-art-museum.jp）